

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 18 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア 下呂		
所在地	岐阜県下呂市森字上ヶ平2273 (電話) 0576-25-7272		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年6月4日	評価確定日	平成20年7月18日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 27 日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	8.6 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~55,000 円	その他の経費(月額)	25,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(160,000) 円	有りの場合 償却の有無	有(30日以内全額、2年 以内補修費除き返還)
食材料費	朝食	300 円	昼食 600 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 27 日 現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	1 名
年齢	平均 80 歳	最低 68 歳	最高 90 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山内外科、小池医院、県立下呂温泉病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市の中心から離れた高台に位置し、四季の移ろいを自然と共に感じ、温泉街を眼下に一望できる。母体は隣県の医療法人で、かかりつけ医師も法人医師が引き受けている。元保養所を改築したホームは、広いロビーや長い廊下があり、車椅子の利用や医療ケアが必要な利用者にもゆとりのある対応ができる。管理者は、開設初年度の基盤造りとし、サービス提供の質の確保に努め、職員教育や利用者や家族との対話を大切にする1年を送ってきた。高台にあることや医療ケアが必要な利用者が多いことから、外出支援にはいろいろの工夫が必要になっている。ホーム玄関前の広い敷地を活用した、ティータイムや家族との軽食会などを行い、利用者の生活の楽しみの機会づくりを工夫している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>① 今回が、初めての外部評価受審である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての自己評価で、職員からの聴き取りを行った後、管理者が自己評価表を記載した。外部評価とも合せ、今後の職員の資質向上役立てたいとしている。</p>
重点項目	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開設以来初めての運営推進会議を5月に開催した。メンバーに家族、自治会長、民生委員、市の職員、包括支援センター職員、事業所職員が入り、大広間を会議の場所として開催し、ホームの紹介や活動内容、行事計画等の報告が行われた。</p>
	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情等があれば、管理者や法人、専門の機関に申し出る方法を重要事項に記載し案内しているものの、管理者は直接の対話を大切にする方針で取り組んでいる。運営推進会議に家族が参加し、意見を出す機会が設けられているが、参加する家族はまだ少ない。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設以前より、地域との信頼関係づくりに積極的に取り組んでいる。現在は、地域の祭りやボランティアがホームに訪れ活動を共に楽しむことができるようになってきている。運営推進会議に地域の役員が参加することにより、より地域住民からの理解や協力を深めていきたいとしている。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、ホーム独自に「住み慣れた地域での生活を継続できる」等、サービスの提供にあたっては「価値ある一日、その人にあった場面や時間を大切に」をそれぞれスローガンにあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設1年未満であるため、管理者がホーム理念を全職員が参加するミーティングで話題にあげたり、職員教育として伝え、意識づけに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	他県の母体法人による開設であることから、地域等に説明会を行う等、開設前より配慮してきた。地域の区長や自治会への働きかけを積極的に行っている。地域の行事「年御太鼓」「田の神の獅子舞」等、地域の人々がホームを訪問する交流も始まった。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価で、職員からの聴き取りを行った後、管理者が自己評価表を記載した。外部評価とも合せ、今後の職員の資質向上に役立てたいとしている。	○	今回の自己評価と外部評価を合わせ、職員の資質向上に向けての活用や運営推進会議での情報提供等の取り組みが期待される。また、自己評価を全職員で取り組み、提供するケアの振り返りの機会とされたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来、サービスの質の確保に取り組んできており、5月に第1回目の運営推進会議が、自治会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員、家族、職員の参加で開催できた。今後は、2ヶ月に1回の開催を予定し、メンバーに参加の協力が得られている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関して市とよく話し合っている。近隣病院の閉鎖にあたり、職員や入院患者をホームで受け入れ、継続的に話し合いも持っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	直接会って話し合うことを大切にする方針をとっており、家族の面会時に利用者の居室で話すことを心がけている。また、2~3ヶ月ごとに、ホームの行事や出来事を写真等も掲載した便り「あんきやよ」で報告している。	○	「あんきやよ」によりホームでの様子は伝わるが、個別の暮らしぶり、主治医往診時の報告、薬の指示内容等を伝える情報提供への取り組みも期待される。また、家族の望む情報内容や伝達の方法についても話し合いたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が参加し意見を出す機会が設けられているが、参加する家族はまだ少ない。意見や苦情を出す方法については、重要事項説明書内や掲示物で利用者等に知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム開設後、併設で小規模多機能の事業を開始し、職員の異動があったが、両施設の利用者には共有のロビーでサービスを提供しており、利用者へのダメージは最小限となった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者研修は行っている。ホーム内の研修・勉強会は自由参加で行っているものの参加率はよい。今後は、職員の研修意欲を助けるため外部研修へ参加しやすい体制を検討している。	○	グループホームとしての認知症ケアの専門性を高めるためにも、研修は非常勤の職員も含める等の取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のホームは3ヶ所であるが、便宜的にも問題があり交流は進んでいない。岐阜県グループホーム協議会への加入はしており、情報は入る。福祉施設からのホーム見学が比較的多くあり、対応している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居が可能であり、実績もある。事前に管理者が直接面接し希望を尋ね、対応が可能な判断を行っている。入居後は、ホームの生活に馴染んでいけるよう本人や家族と直接会って話すことを大切にする支援の方法で取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現在は、利用者の7割が車椅子を利用する身体状況で、座ったままでも可能な日常動作を共に行うことが多いが、ホームには畑があり、作業に参加したり、食後の片付けの手伝いを自分のできる仕事として積極的に参加する利用者もある。声を掛け合い共に支えあう関係がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、1日1回、短時間であっても利用者の居室を訪問し、対話する時間を持つことを目指し、実施している。本人や面会時に家族と直接話すことにより、意見や希望を把握するよう取り組んでいる。	○	管理者や他の職員が把握した情報をいつでも全職員間で周知できるシステムの充実が期待される。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自発的な意見を出すことが困難な利用者もあるが、日ごろ把握した情報や家族との会話で得た情報を職員間で収集し、介護計画を作成し、家族に同意を得る方法をとっている。	○	安全に配慮しつつ、身体能力の低下や重度化の予防に向けての個別計画や支援が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議を入居後3ヶ月、6ヶ月、その後は6ヶ月ごとに定期に開催し、計画作成担当者や利用者の希望、家族との話し合いからの意見を取り入れ、見直しを行っている。医療手当てが必要になった利用者については、かかりつけ医師や看護職員とも連携し、計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診のための通院や美容院への無償送迎支援を行っている。また、併設の小規模多機能事業所の利用者と同じ場所を使うサービスの提供を受け、併設事業所の利用者とも顔なじみとなる交流が図られている。	○	併設する小規模多機能事業所の利用者と共に過ごす時間帯が長く、空間的に問題は無いものの、ホーム独自のケアの時間帯がもたれることも期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の中には、名古屋在住のかかりつけ医師による、月2回の往診を受ける人もいる。利用者の健康状態の把握は、日勤の看護職員が行い、必要時はかかりつけ医師に連絡し、指示を仰ぐ。入居前のかかりつけ医にも利用者が通院支援を希望すれば対応している。	○	地域に協力医院もあるので、緊急時に連携支援が得られるよう、日ごろからの連絡体制も整えられたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	胃ろう、酸素吸入、吸引等の医療系ケアを必要とする利用者もあり、看護職員と連携をとって対応している。重度化する場合も家族等の希望を受け入れ、ホーム内で終末期の支援を行う予定である。	○	重度化や終末期の方針について、更には、家族と方針の共有や対応内容のきめ細かい話し合いや書類等の整理も期待される。また、職員への精神的支援等の取り組みにも配慮されたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	優しい言葉がけや耳元での言葉がけなど、個人に配慮した支援が見られる。個人情報の記録物等は適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	車椅子の利用や重度化した利用者が多いため個別対応の時間が多くなるが、職員は利用者の性格や行動習慣を把握し、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の小規模多機能事業所と共有する厨房から嚙下力に配慮した、彩のよい食事が提供されている。食後の食器の片付け等を積極的に手伝う利用者もあるが、歩行に課題がある利用者が多く、手伝えることが限られている。	○	以前の病院からの習慣で、食事時にエプロンの着用があるが、必要な方のみ使うなどケアの検討が望まれる。また、食事時のテレビの音量にも配慮されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームには、温泉を引いており、脱衣所も銭湯のように広く、安全で、温泉独特の香りもある。毎日入浴を楽しむ利用者もある。寝たきりの利用者には、職員が2～3人で対応し、温泉入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	コーラスや田の神獅子舞、ハンドベル等のボランティアの訪問を受けたり、豆まき、スポンジボーリング、おはぎ作り等季節ごとの楽しみを取り入れている。皆で行事の小道具作りや扮装して楽しんでいる。季節の景色を楽しむため車で外出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは高台にあり、周辺は坂道となっている。車椅子の利用者が7割で、1対1での対応のため、戸外への外出は、ホーム前の広い敷地であることが多い。回数は少ないが、ホーム前の敷地で家族を招いた行事やティータイムを開催する等工夫している。	○	地理的なことや利用者の健康状態もあるが、家族から外出支援を希望する声もあるので、家族の協力を得る等し、外出機会を増やすよう取り組まされたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物玄関のドアは自動扉である。ホームの敷地に隣接する土地に崖があるため、車椅子利用者が多く、1人で外出する利用者が現在いないことを職員は把握してはいるが、各居室のサッシ窓は全開しないよう止めてある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者が地域の消防団に入っているものの、近隣の住宅が遠く、地域の高齢化が進んでいる等から、利用者との防災訓練の実施や誘導時間の測定、緊急連絡網作成、職員の意識づけを行う等努力している。1人におにぎり2食分を災害用に備蓄している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は併施設と共有の厨房で作られ、食事摂取量は当日の担当職員が記載している。本人の嗜好は入居前の面接や入居後の会話から把握している。また、月1回の行事や誕生日会には特別食のお楽しみ献立がある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、元保養所を改築したもので、全ての共有空間が広く、スプリンクラーの設置もある。エレベーターが無いとため、階段昇降機を取り付け、利用者の移動は、職員の見守りのもと昇降機利用で対応している。各ユニットに風呂はあるものの、利用者のほとんどは温泉入浴を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のそれぞれが広く、家庭から道具の搬入があっても、冷蔵庫の搬入もあるが、余地がある。畳の居室もあるが、車椅子への対応になり、家族と協議し床にシートを取り付けた。レクリエーションで作成した作品や絵手紙、家族写真が置いてある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。